

本島の磨崖仏

本島は724年に正覚院、729年には惣光寺が創建されたのを見るように古くから信仰の島でもありました。江戸時代には、この小さな島の浦々に24もの寺院が建ち並んでいたとのこと（現在11ヶ寺、住職が居る寺は3ヶ寺のみ）。この信仰、歴史の島に磨崖仏が現在5ヶ所確認されています。



- ① ゆるぎ岩観音 (生ノ浜)
- ② 観音菩薩 (生ノ浜)
- ③ 水不動 (正覚院)
- ④ 不動明王 (正覚院)
- ⑤ 不動明王 (笠島)

画像は次ページ

① ゆるぎ岩観音

生ノ浜にあり如意輪観音が彫られており、頬付えをついた姿から歯痛を治す観音様と信仰されていた。また近年では上の大石が落ちそうで落ちないので合格祈願の隠れた穴場になっている。地元では「ゆるぎわさん」と親しまれている。室町時代の作ともいわれる。



② 観音菩薩像

生ノ浜のトイワにある。
上記と同じく室町期作といわれる。



③ 水不動

正覚院参道にあり
その昔、弘法大師が渡唐のおり海が荒れたため当島に上陸され当山聖観音様のお招きだと法悦歓喜され、自ら、ここにあった自然石に不動尊を刻まれ無魔成満を祈願された。



④ 不動明王

正覚院の南にあり大石が
乗った石面に不動明王が
彫られている。

すぐ下が崖になっており
多少危険を覚悟



⑤ 不動明王

笠島に行く循環道の山側にある
少し小ぶり。

右の筋は道路工事のとき、突出して
いた岩を除去した時のもの。

